

①胃カメラ検査（上部消化管内視鏡検査）について

●目的

食道・胃・十二指腸の粘膜を観察し、逆流性食道炎や胃炎・胃潰瘍などの良性疾患の有無、食道がんや胃がんなどの悪性疾患の有無や進行度を診断します。

●方法

まず、検査中に観察の妨げになる胃の中の泡を消すために、液体の薬（除泡薬）を飲んでもらいます。次に、検査が楽にできるようにスプレー式の喉の麻酔を行います。麻酔が終わったら検査台に左側を下にして横向きに寝ていただきます。ここで、胃の動きを止める筋肉注射を打つこともあります。のどの反射が強い方など検査中の苦痛が強い方には、鎮静剤を静脈注射することもあります。続いて、医師が内視鏡を口もしくは鼻から挿入します。検査中は詳しい観察のために空気を入れて胃をふくらませますが、なるべくげっぷを我慢してもらおうと検査がスムーズに進みます。検査中は送気や内視鏡との接触により、のどの違和感やお腹の張りを感じることがあります。検査にかかる時間は10～15分くらいです。

検査中は必要に応じて以下の検査・処置を追加します。

- 1) 色素散布：病変をよりの確に診断するために胃では青い色素をかけることがあります。
食道ではヨード剤(ルゴール液)を使用することがあります。
ヨード剤の散布後は嘔気や胸部不快感を伴うことがあります。
- 2) 生検：病変の一部の組織を鉗子で採取し、顕微鏡での病理検査を行います。

●危険性・合併症

消化器内視鏡検査は安全性の高い検査ですが、検査による合併症が全くないという訳ではありません。2019～2021年に行われた全国調査では0.076%の確率で合併症が起っています。合併症の内容は次のようなものがあります

- 1) 内視鏡による消化管損傷（穿孔）、出血
- 2) 生検による消化管損傷（穿孔）、出血
- 3) 前処置によるアレルギーや薬剤そのものによる副作用
- 4) 検査前にあった疾患の悪化

●注意事項

- ・細心の注意を払って検査を行っておりますが、万が一合併症が生じた場合には追加処置や緊急手術が必要になることがあります。
- ・鎮静剤の使用を希望される方は、電話予約の際にその旨をお伝えください。変更がある場合も、必ずお電話にてご連絡をお願いいたします。
- ・鎮静剤使用には予約枠・休むためのベッドの確保が必要となるため、当日のご希望には対応いたしかねます。あらかじめご了承ください。

②内視鏡検査時の鎮静剤使用に関する説明書

(鎮静剤の使用をご希望の方は、必ずご覧ください)

●はじめに

内視鏡検査をより楽に受けられるよう、検査前および検査中に鎮静剤(眠くなる薬)を注射で使うことができます。あくまで鎮静剤であり全身麻酔ではないため、効果には個人差があり、必ず意識を失うほど眠れるわけではありません。使用しない場合よりは楽にできることが多いため、検査に不安がある方にとってはよい方法です。しかし、偶発症の危険性も伴うため、下記の内容を十分にご理解いただいた上で同意書にご署名後、検査を実施しております。

●鎮静剤の使用法

鎮静剤は注射で投与するため、あらかじめ生理食塩水などの点滴をします。これは万が一鎮静剤使用に伴う偶発症が起きた場合に速やかに対処できるようにするためのものです。鎮静剤や点滴の投与量は体格や年齢を考慮して調整します。

●鎮静剤の効果

鎮静剤の効果は、人によって大きく異なるため、投与量が過剰とならないよう必要最小量を投与します。患者様の安全のため、眠くなりつつも呼びかけに応答できる程度が理想的です。完全に眠っていなくても苦痛が強くなければ、通常鎮静剤の追加は行いません。

●鎮静剤の偶発症

鎮静剤使用に伴う偶発症としては、呼吸抑制(呼吸が弱くなる)や血圧低下があります。極めて稀ですが、不整脈やアレルギー症状、アナフィラキシーショックなどを起こすこともあります。また、検査終了後も眠気が続いてふらついたり、転倒してしまうこともあります。2019年～2021年に行われた消化器内視鏡関連の偶発症に関する第7回全国調査報告では、偶発症で最も多いのは鎮静剤使用に関連するもので、その発生頻度は約0.04%でした。

●鎮静剤使用に際しての安全対策

当院では安全対策として鎮静剤を過剰に投与しないことはもちろんですが、鎮静剤を使用する方には全員指先に血中酸素飽和濃度を測定するセンサーを付けて呼吸状態を確認し、また適宜血圧測定を行って循環動態を確認しています。マニキュアや付け爪はセンサーの測定に支障をきたすため、検査当日はご使用をお控えください。

●鎮静剤使用後の注意事項

- ・検査後は翌朝まで自転車・電動キックボード・バイク・自動車などの運転は絶対にしないでください。飲酒運転や居眠り運転と同じ状態となり、重大事故につながります。
- ・鎮静剤の影響がなくなるまでには時間がかかります。安全を確認するために検査後30分程度は横になってお休みいただきます。一度覚醒された後でも、再び眠気が生じることがありますので、ご注意ください。
- ・検査当日は飲酒禁止です。

③胃カメラ検査（検査前日・検査当日）における注意事項

●検査前日

- ・検査前日夜 9 時以降から検査終了まで食事は一切出来ません。
- ・お水・お茶は飲めます。お水・お茶以外の水分の摂取はお控えください。

●検査当日

- ・検査の 1 時間前までは、お水・お茶を飲んでいただいてもかまいませんが、それ以降は、検査が終わるまで水分の摂取はできません。
- ・心臓のお薬・血圧のお薬・血液をサラサラにするお薬(抗血栓薬など)を服用されているは、朝 7 時までにお水と一緒に服用してください。
それ以外の朝のお薬は検査前に服用しないでください。
- ・糖尿病治療薬・インスリンは検査当日の朝は服用・使用しないでください。
- ・ボディスーツやガードルなど、身体を強く締めつける衣類の着用はお控えください。
- ・入れ歯など外せる歯は、全て検査前に取り外してください。

●注意事項

- ・検査中に患者様の状態を観察する為、口紅・マニキュア等のご使用はお控えください。
- ・お薬手帳を必ずご持参ください。
- ・服用されている薬剤の種類や数によっては、出血のリスクが高いと医師が判断し、生検等の処置を当日に行えないことがあります。あらかじめご了承ください。
- ・検査後激しい腹痛・下血・黒色便が認められた場合には、下記の電話番号までご連絡ください。

社会医療法人 札幌清田病院 TEL 011-883-6111